

研究名：「周産期障害と高次脳機能障害の関連」についての研究

1. 研究の目的

高次脳機能障害は脳卒中や事故などをきっかけとして脳の機能が障害を受けることにより、記憶力の低下や感情のコントロールができない、目的を持ってものごとを遂行することができないなどの状態となり日常生活に支障をきたす病態です。近年、小児における高次脳機能障害が注目されており、脳炎や交通外傷などの後の経過中に、就学後の学校生活で記憶障害や視覚認知障害、学習障害、遂行機能障害などの高次脳機能障害様の病態により、学校生活が困難になっている児の存在が明らかになっています。しかしながら、周産期の障害は高次脳機能障害の原因としては除外されており今後の検討課題とされています。

胎外生活への適応障害などによりNICUで入院加療を要した新生児の中で、頭部MRI検査で軽微な異常を認める児が存在します。これらの児の中に高次脳機能障害様の病態を示す児が存在し、就学後の学校生活などに困難をきたす児がいます。早期発見と介入によって予後を改善できる可能性があります。

2. 研究の方法

研究対象：当センターNICUで入院加療を行った児の中で入院中に施行した頭部MRIに軽微な異常を認め、NICU退院後の発達外来における経過観察で、粗大運動や知的発達には明らかな遅れを認めないが、記憶障害や視覚認知障害、学習障害、遂行機能障害などの高次脳機能障害様の症状を示す児を対象とします。

研究期間：倫理審査委員会承認後から5年間

研究方法：

- (1) 発達外来で経過をみている児の中で上記の対象者に該当すると考えられる児に対して当センターの言語聴覚士および作業療法士による発達の評価を行います。必要に応じて学級担任などと連携し、児の生活環境の見直しや児の発達特性にあった学習方法を提案し支援します。
- (2) NICU入院中に施行した頭部MRIに軽微な異常を認めた児の両親にアンケートを送付し、高次脳機能障害様の症状の有無を確認します。アンケートの回答によって受診を希望される場合は、発達外来での診察と発達検査を行います。

3. 研究に用いる情報の種類

診療録から得る情報

- (1) 母体情報：年齢、初産・経産、妊娠中の合併症、治療内容、分娩方法、羊水混濁、N 妊娠中の感染症など
- (2) 新生児情報：性別、在胎週数、出生体重、Apgar score、合併症、治療内容、退院前検査所見（頭部 MRI など）、発達外来での経過など

アンケートから得る情報：日常生活での困難さの有無、高次脳機能障害様の症状の有無

4. 情報の公開

研究内容は学会発表や学術論文の形で公表する予定です。

5. 研究実施機関

奈良県総合医療センターNICU

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
また、情報が当該研究に用いられることについて患者様、もしくは代理人の方にご了承頂けない場合には研究対象としますので、その旨をご連絡下さい。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

○本研究に関する連絡先

奈良県総合医療センターNICU

桐村 章大

電話：0742-46-6001（代表）

○本研究の研究代表者

奈良県総合医療センターNICU

箕輪 秀樹